

大学生の大学施設への評価と要望に関する意識調査

山梨県立女子短期大学におけるケーススタディ

*The Study about university students' estimation and demands for educational institution —
Case Study about Yamanashi Women's Junior College*

野崎薫 赤池恵理子[※] 海野真郁[※] 田中舞[※]

Nozaki Kaoru Akaike Eriko Umino Makoto Tanaka mai

[※]平成14年度生活科学科卒業生

Key Word Educational institution, School building, Campus plan,
University student, Favorite space choose,
教育施設 学校建築 キャンパス計画 大学生 居場所選択

1. 調査の背景・目的

日本の大学は、国立大学の独立行政法人化に象徴されるように、大きな転換期を迎えている。少子化の進展に伴う学生数の減少に加えて、厳しい社会的経済状況の中、大学が学生を選ぶ時代から、学生が大学を選ぶ時代になりつつある。このような中、各大学では、優秀な学生の獲得を目指して、様々な取り組みが行われている。具体的には、学部・学科の再編・新設、大学キャンパスの整備、都心のサテライト教室の設置、講義・評価方法の改善、大学生活や就職活動の支援の充実、さらには授業料を値下げした大学まである。

このような大学を取り巻く厳しい社会的背景の中、近年の日本の大学キャンパスの整備状況に着目すると、いくつかの傾向を示している。たとえば、食堂やカフェテラスの改築・整備、エントランスホールや教室周囲に、学生ホールや談話コーナーを設置するなど、講義以外の休憩時間や空き時間を過ごす場所を学生にとってより快適で魅力的なスペースにする大学が増えている。また、従来は、門や塀で大学周囲を囲む大学が大半だったが、都心の大学を中心に、塀は設けず、街路に直接接する形で学校施設を新に建設し、最も目立つ場所に、カフェテラスや図書館を配置している。大学の魅力を外に向けて積極的にアピールする大学が増加している。

山梨県立女子短期大学では、4年制・男女共学

化への改組・転換と、大学施設の整備が検討されている。前述した、近年の大学キャンパス整備の動向を踏まえつつ、本調査では、現在の山梨県立女子短期大学のキャンパスに対する、在学生の評価と要望に着目し、学生が求めている大学キャンパスについて考察し、より魅力ある大学キャンパスの実現にむけて、基礎的な知見を得ることを調査の目的としてる。

2. 調査方法

まず、予備調査として、十数名の学生にインタビュー調査を実施した。山梨県立女子短期大学のキャンパスや施設に対する、学生の評価や要望の概要と傾向を把握し、その結果を元に質問紙を作成した。調査は、質問紙調査を中心に、平面図等の資料分析と観察調査を合わせて行った。質問紙調査では、学生の生の意見を聞くために、まず自由記述方式で、学校の中の好きな場所とその理由、嫌いな場所とその理由のそれぞれについて、回答を求めた。その上で、山梨県立女子短期大学の大学施設に対する、総合的な学生の評価傾向を把握する目的から、12の評価項目を設定し、評価する上位3項目と、評価しない下位3項目を選んでもらった。さらに、今後、充実あるいは新たに設ける可能性のある、38項目の選択肢を設定し、その中から上位3項目を選んでもらった。なお、38項目の選択肢は、インタビュー調査の分析結

果を元に設定した。

調査時期は、生活科学科の1年生が平成14年7月1日、その他が同年9月11日から10月4日の期間である。調査票は教室で、配布・回収した。山梨県立女子短期大学在校生449人中、380人に調査票を配布し、276票（回収率73%・在校生の61%）の回答を得た。学年による内訳は、1年生が160票（在校生の72%）、2年生が116票（在校生の51%）。なお、本調査は、平成14年度の卒業研究として、野崎研究室で実施した。

3. 調査対象の概要

調査対象の山梨県立女子短期大学は、昭和41年4月に創立され、平成15年度現在、創立37年である。現在、国文科、幼児教育科、生活科学科、国際教養科の4学科からなる、県立の女子短期大学である。所在地は、山梨県甲府市飯田。市立西中学、県立中央高校に隣接し、甲府駅から徒歩20分である。大学周辺は、文教施設、NHK甲府放送局、車両関係の会社、住宅、飲食店などが混在する、比較的静かな地域である。敷地面積は、25,255㎡。創立時に建設された本館は、鉄筋コンクリート造の3階建て、1階に事務室、学生ホール・購買、実験・実習室・研究室、2階に教室・実習室・研究室、3階には教室と講堂がある。本館の教室・実習・実験室には、冷房設備がない。その他、図書館（鉄筋コンクリート造2階建）、体育館、研究棟、レッスン棟、新館、グラウンド、テニスコート、駐車場、駐輪場、倉庫等が主な大学の施設である（図1参照）。新館は、平成2年度の国際教養科の新設に合わせて建設された建物で、鉄筋コンクリート造2階建て。1階に階段教室・演習室・研究室、2階に情報教室・LL教室・研究室等があり、冷房設備も備えられている。情報教室は、講義に使われている時以外は、学生は自由に使うことができ、インターネットにも無料で接続可能。

4. 調査結果の概要

(1) 大学キャンパスで評価する項目

山梨県立女子短期大学の大学キャンパスについて12の項目に分けて、その中から、評価できる項目、上位3つを順位を付けて選択してもらった。12項目の内容は、①立地条件（駅からの距

離・周辺環境）、②敷地の広さ・形状、③緑・中庭、④駐車場・駐輪場の数や位置、⑤教室の快適さ（広さ・明るさ・空調設備・椅子・机）、⑥視聴覚設備（テレビ・ビデオ・スライド・LL機器など）、⑦コンピューター環境・情報教室、⑧実験・実習・レッスン室、⑨体育施設（体育館・グラウンド・テニスコート・更衣室）⑩図書館、⑪学生ホール・購買、⑫階段・廊下・トイレである。選択肢の設定に際しては、選択肢が多いと、序列を付けて選ぶことが困難になることから、類似するものをまとめ、全体的な傾向を把握できるよう配慮した。

学生が選んだ評価する項目・ベスト3（図2参照）は、最も評価する項目としては、コンピューター環境・情報教室、次いで、緑・中庭であった。一番ではないが、二番目、あるいは三番目に評価する項目として、学生ホール・購買も、多くの学生から選ばれていた。

一方、教室の快適さ（広さ・明るさ・空調設備・椅子・机）、図書館については、一番評価する項

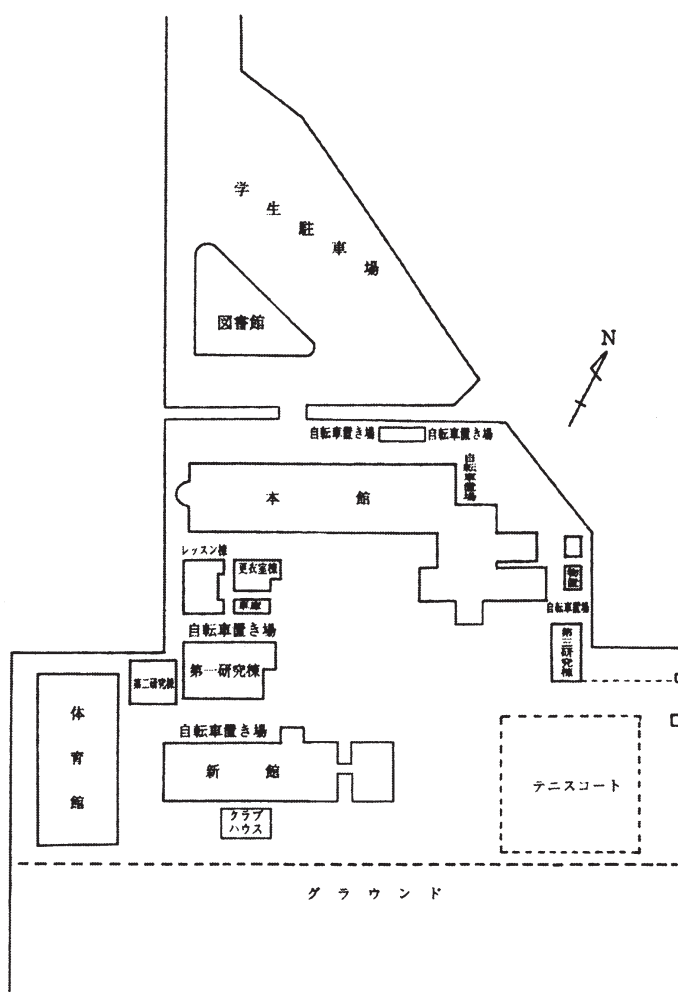


図1・山梨県立女子短期大学配置図

目にした学生は一人もおらず、駐車場・駐輪場の数や位置、敷地の広さ・形状、実験・実習・レッスン室、階段・廊下・トイレについても、評価する項目として選んだ学生は少ない。

後述する、自由記述による好きな場所の調査結果では、ほとんど記述されなかった、立地条件（駅からの距離・周辺環境）、体育施設（体育館・グラウンド・テニスコート・更衣室）が、1割程度の学生から評価されていた。自由記述だと学生は記述しなかったが、12項目の中から、客観的に順位を付けて上位3項目を選ぶと、立地条件やグラウンドは、比較的评价できる項目であったと考えられる。

（2）大学キャンパスで評価できない項目

前述した同じ12項目の中から、山梨県立女子短期大学の大学キャンパスにおいて、評価できない項目、ワースト3を選んでもらった結果（図3参照）、教室の快適さが、最も学生には評価されていないことが明らかになった。ワースト1に選んだ学生が4割（110人）を占めた。

その他の評価されなかった項目は、意見が分かれていた。駐車場・駐輪場の数や位置、立地条件（駅からの距離・周辺環境）、敷地の広さ・形状の

3つに、回答が分散していた。体育施設（体育館・グラウンド・テニスコート・更衣室）、図書館、階段・廊下・トイレについても、評価すると答えた学生よりも、評価しないと答えた学生の方が多かった。無回答の数は、ベスト3に比べると、ワースト3の方が少なく、学生にとって、評価する項目よりも、評価しない項目の方が選びやすかったようである。

学年、学科、通学方法による評価の違いに着目したところ、学年と学科による回答結果の違いはほとんどなかったが、通学方法で傾向に違いが現われた。学生の大学への通学方法（図4参照）は、電車と徒歩が26%、車が25%、徒歩が14%、電車とバスが11%、自転車が9%、電車と自転車が9%、バイクが4%だった。車で通学している70人の学年に着目すると、1年生と2年生、共に35人であった。1年生の22%、2年生の30%が、車通学しており、学年が上がると、車通学者の割合はやや増加していた。車通学者があげた大学キャンパスのワースト3（図5参照）は、教室の快適性と駐車場に二分されており、車通学の場合、駐車場を評価できないと考えている学生の割合が高かった。

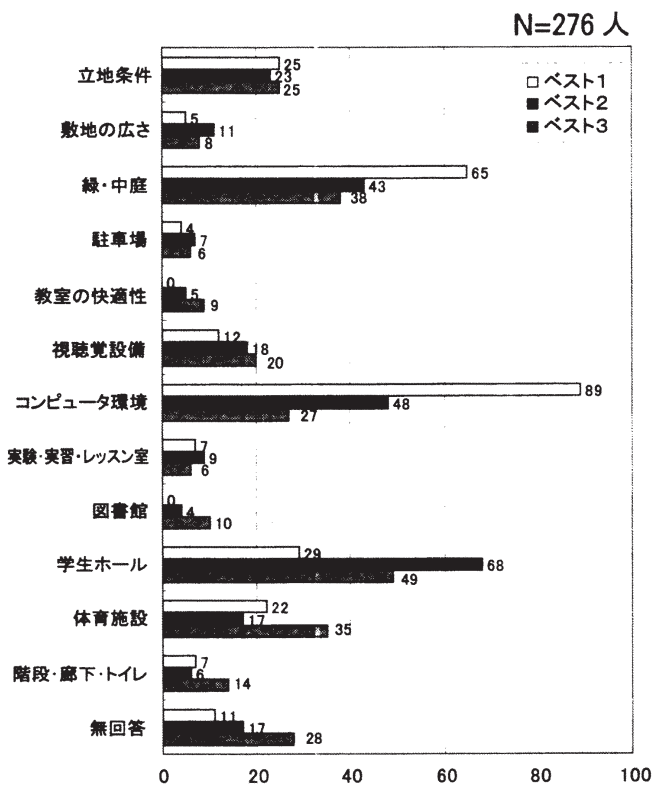


図2 大学キャンパスで評価できる項目・ベスト3

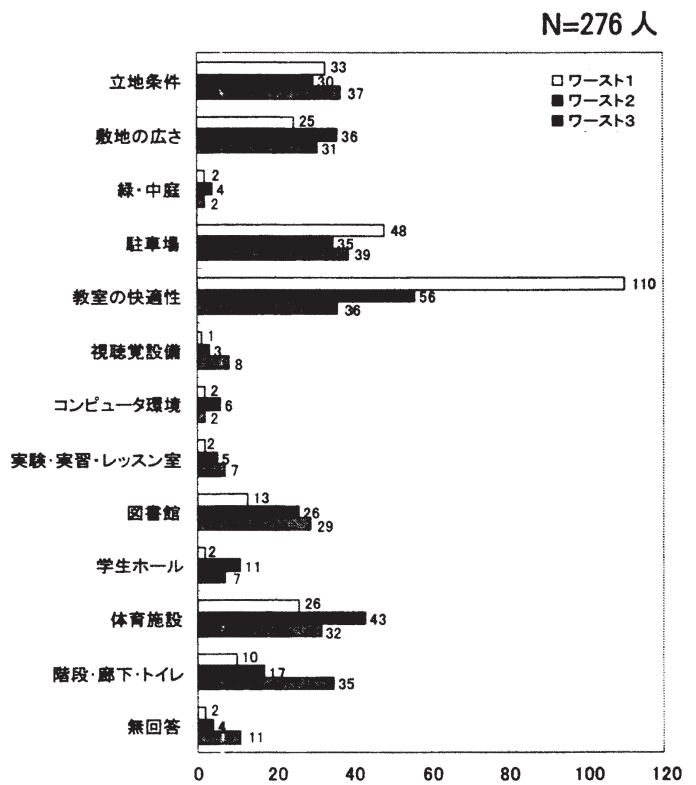


図3 大学キャンパスで評価できない項目・ワースト3

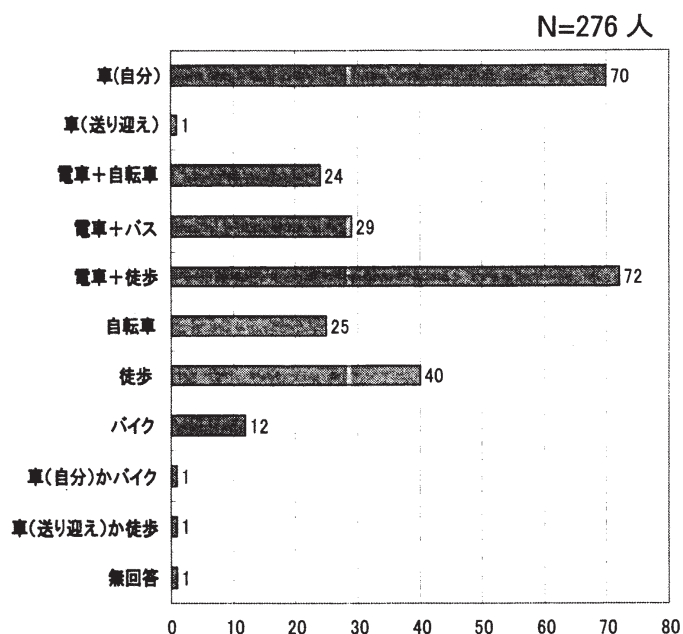
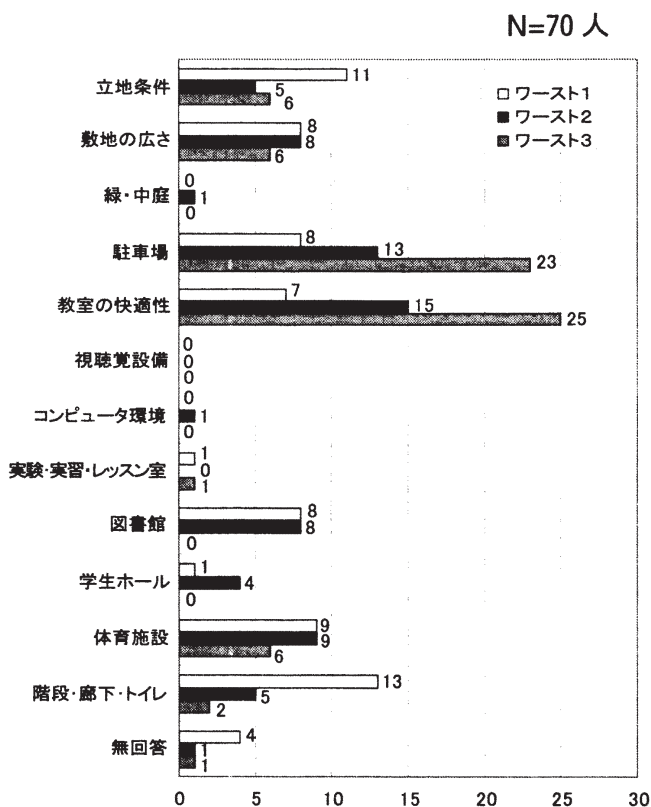


図4 大学への通学方法

(3) 自由記述・好きな場所とその理由

自由記述なので、細かい表現は若干異なっても、ほぼ同じ場所を記述していると思われる回答をまとめて集計した。

第1位は、『新館(53人)』で、「きれいだから」「落ち着くから」「開放感があるから」「設備がよい」「クーラーがあって涼しいから」という理由が多かった。第2位は、『自然(26人)』で、「季節感があっていい」「気分が落ち着く」「緑が多い」という理由があげられていた。「それくらいしかないから」という皮肉な記述もあった。第3位は、『情報教室(25人)』で、「自由に使えるから」「クーラーがあるから」「静かだから」というのが主な理由だった。第4位は、『学生ホール(23人)』で、「テレビがあるから」「みんなで集まれるから」「落ち着く・のんびりできる」「おばちゃんがいるから」などといった理由であった。第5位は、『敷地が狭い(19人)』で、理由は「敷地が狭く移動が楽」というやや意外な理由や、「一体感があってよい」というものであった。第6位は、『階段教室(13人)』と『図書館(13人)』。第8位は、『中庭(7人)』で、理由は「緑が多いから」「雰囲気が好き」というものだった。第9位は、『購買』で、理由は「アイスクリームを売っているから」や「楽しいから」だった。少数意見だが、『校舎』が「古い感じがするので好き」や、『立地条件』が「自然がある」「安全性がある」から好きだという記述もあった。

図5 大学キャンパスで評価できない項目
(車通学生)・ワースト3

『雰囲気』が「落ち着く」や「ちいさいけどきれい」なので好きという記述もあった。

第1位の『新館』に加えて、第3位の『情報教室』、第6位の『階段教室』を合わせると、91人(33%)が、新館を好きな場所に選んでいた。新館が建設時期が新しく、冷房施設があることも、好きな場所に選ばれた要因になっていると考えられる。

(4) 自由記述・嫌いな場所とその理由

自由記述で答えてもらった嫌いな場所の第1位は、『クーラーがないこと』で、73人(26%)と、4人に1人にのぼった。理由は、「暑いから」ということにつきるようだ。第2位は、『本館関係』で、理由は、「廊下が暗くて怖い」や「天井が低く、配管がむきだし」、「椅子の座りごごちが悪い」や「本館の教室には、クーラーがない」という理由から、「ドアノブの位置が低い」や「教室の廊下側に窓がない」という理由もあった。第3位は、『食堂がないこと』で、理由の欄には「ほしい」とだけ記述している人が目立った。第4位に『本館』、第5位に『建物(22人)』、第6位は『学生ホール(20人)』で理由は「学食がないから」が多く、

「座席が少ない」や「汚い」という記述もあった。第7位は『土足禁止（16人）』、第8位が『駐車場（11人）』と『立地条件（11人）』で、「駅やバス停から遠く、通学に不便」という理由が多かった。第10位は『狭い（6人）』、第11位は『体育館』『設備』『トイレ』の各5人だった。その他少数意見だが、『外観が大学らしくない』や、『喫煙場所』を「隔離しないでほしい」、『事務室・教務室』が「入りにくい」、『掲示版』が「見にくい」というものもあった。

全体的な傾向としては、クーラーがないことと、本館が老朽化していること、学食がないことの3つに大別することができる。

（5）今後充実してほしい項目

インタビュー調査などをもとに、今後充実してほしい項目として、38項目をあげ、充実してほしい上位3項目（図6参照）を選んでもらった。

①第一位・クーラー

最も要望が多かったのは、やはりクーラーであった。調査時期が、7月1日、9月11日から10月4日と、真夏ではないが、比較的暑い時期であったことが、ある程度影響していると考えられる。新館の教室や本館の学生ホールや研究室、図書館には、冷房設備があり、クーラーがないのは、本館の教室・実験・実習室や体育館である。前述したように、最も評価できない項目として、教室の快適性があげられていたことから考えても、まず何よりも、本館の教室・実験・実習室の冷房設備の整備を 学生は求めていると考えられる。

②第二位・食堂・カフェ

クーラーに次いで、充実してほしい項目として要望が多かったのは、食堂・カフェであった。山梨県立女子短期大学では、創立当初は、学生ホールが食堂としても使われており、現在の売店の場所に食堂の調理室があった。しかし、学生数が少なく、長期休暇中は利用者が減少するため、営業が成り立たず、数年で食堂は閉鎖された経緯がある。現在、学生は、弁当やパンを持参し、学生ホールや教室で昼食をとっている。前述したように、近年、食堂やカフェを改築・整備する大学が増えているが、そのことの裏付ける結果であった。

③第三位・駐車場

前述したように、今回の調査対象の学生の25%にあたる70人（図4参照）が、大学に

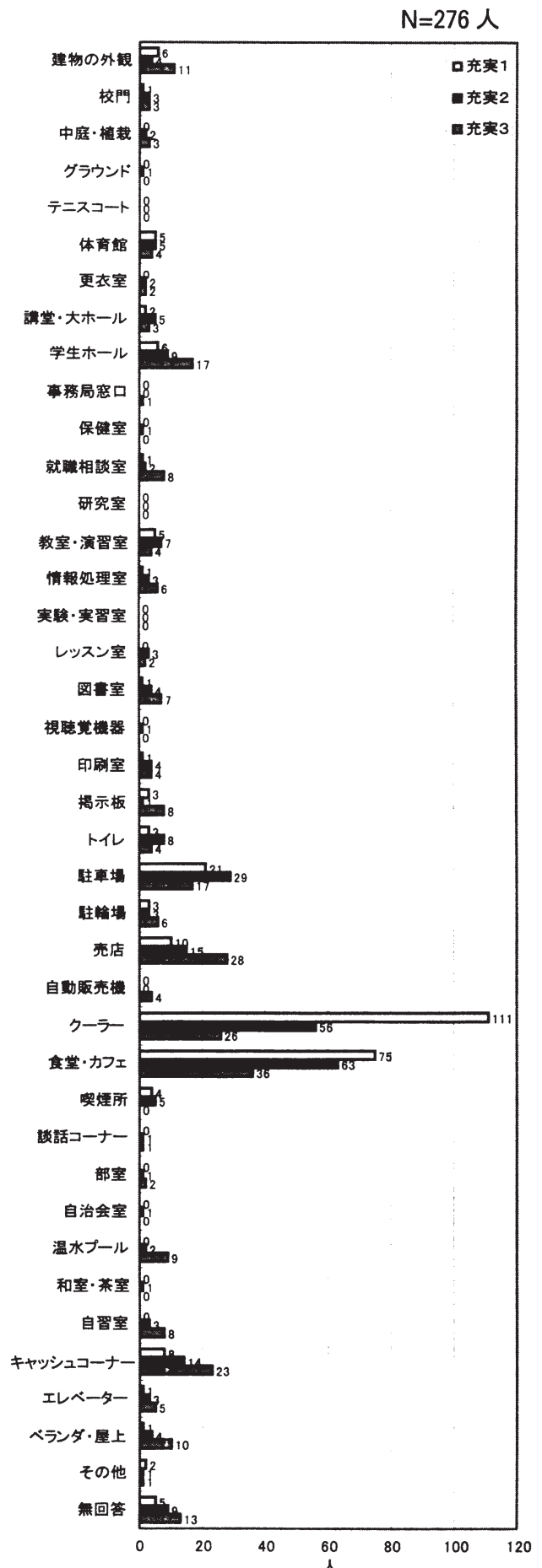


図6 大学キャンパスで今後充実してほしい項目

車で通学している。駐車場を充実してほしい項目に選んだ学生は、第一希望が21人、第二希望が21人、第三希望が17人で、計67人であった。山梨県立女子短期大学では、通学距離が10 km以上の学生に、学生用の駐車場の利用を認めており、学生総数450人中、130人に利用許可証が発行されている。学生用の駐車場は、北側の図書館周辺にあり、40台程度駐車可能である。時間帯によっては駐車できず、大学周辺の有料駐車場を利用している学生もいる。

山梨県内の他大学における学生の駐車場の利用状況に着目すると、山梨大学では大学構内の駐車は禁止されている。都留文科大学では、学生数約三千人に対して、車通学が許可されているが学生は117人で、学生用の駐車場は約70台である。山梨県立女子短期大学では、学生数の1割程度の駐車場が確保されており、他大学に比べると条件的には恵まれている。しかし、山梨県は、電車の駅の数、沖縄県に次いで、全国第二位と少なく、公共交通機関による通学が困難な学生も多く、車通学の学生にとって、駐車場の整備は切実な問題である。

④第四位・売店

売店については、第三希望で充実してほしい項目として選んだ学生が多い点に特徴がある。クーラー、食堂・カフェ、駐車場ほど、切実な問題ではないが、できればもっと充実してほしいと考えている学生が多いと考えられる。現在、売店では、文房具、パン、おにぎり、菓子類などを販売している。大学の近くにコンビニエンスストアなどの店舗もなく、大学には食堂がないことから、それを補う機能を 学生は売店に求めていると思われる。

⑤第五位・キャッシュコーナー

ヒアリング調査で、複数の学生から、キャッシュコーナーを求める意見が出された。そこでアンケート調査では、38項目の選択肢の一つとした。その結果、当初の予測以上に、キャッシュコーナーの設置を求める学生が多かった。しかし、売店と同様、第一希望ではなく、第二、第三希望であげている学生が多かった。キャッシュコーナーについては、このように学生は希望しているが、ここ数年、キャッシュコーナーを狙った、強盗事件が多発しており、防犯上、キャッシュコーナーの設置は困難な状況になりつつある。

⑥第六位・学生ホール

学生ホールは、大学キャンパスで評価する項目(図2参照)で、コンピューター環境、緑・中庭に次いで、三番目に評価できる場所にあげられていた。現在の学生ホールは、売店と飲み物の自動販売機が設置され、弁当を食べたり、空き時間に友達としゃべったりする場所で、小型のテレビが一台と、旧式のパソコンが数台置かれている。場所は、本館の一階で、出入り口や階段にも近く、学生が立ち寄りやすい場所にある。現在の学生ホールが、それなりに評価されており、食堂・カフェや売店の充実が優先された結果、今後充実してほしい項目としては、第六位になったと考えられる。

⑦第七位・建物の外観

建物の外観を充実してほしいという学生が、第一希望が6人、第二希望が4人、第3希望が11人いた。現在の建物の外観は、建築時期によって、外装材や色調も異なり、デザイン的には統一されていない。シンボリックな校門・並木道・中庭・建物などもない。大学キャンパスとしては、緑が成長したことと、土のグラウンドは比較的評価できるものである。人数的には、第七位と、決して多くはないが、建物の外観をもっと充実させてほしいと考えている学生がいることは注目すべき結果である。クーラー、食堂・カフェ、売店、学生ホールなどがある程度整備されれば、次に学生が求めるのは建物の外観、大学キャンパス全体の印象になるのではないかと予測させる結果であった。

⑧第八位・体育館

現在の体育館はかなり老朽化しており、積雪時には、屋根が落下する恐れがあり、使用禁止になっている。学生も改善を求めており、第一希望で5人、第二希望で5人、第三希望で4人の学生が充実を求めている。教室・演習室よりも、やや多い学生が、体育館を充実・改善してほしいと考えていることが明らかになった。

⑨第九位・教室・演習室

学生が大学で最も多くの時間を過ごす場所は、教室・演習室であるが、それを充実してほしい項目としては、第8位にとどまった。前述したように、大学キャンパスで評価できない項目として、教室の快適性をあげた学生が最も多かったが、この結果は、その大半はクーラーの設置を求めているということを示していると考えられる。教室・

演習室それ自体をもっと充実してほしいと考えている学生は、第一希望が5人、第二希望が7人、第三希望は4人であった。関連施設である、実験・実習室や研究室の充実を求めている学生は一人もおらず、講義や実習の場所に対する学生の要望の優先順位は、あまり高くないことがわかった。

⑩第十位・喫煙所

現在、山梨県立女子短期大学では、体育館近くの屋外に灰皿を設置し、喫煙所としている。本館の裏口の外で、喫煙している学生もいる。短大であり、喫煙する（できる）学生が限られており、現状ではそれほど喫煙場所に関する問題は顕在化していないが、将来、4年制男女共学になった時には、喫煙所は必ず整備していく必要がある。ヒアリング調査では、喫煙する学生、喫煙しない学生の双方から、喫煙所の設置を求める意見があった。

⑪第十一位・トイレ

第一希望が3人、第二希望が6人、第3希望が4人であった。本館のトイレは設備的にはかなり老朽化しているが、清掃がゆきとどいており、管理状態がよいので、この程度の要望でとどまっと考えられる。ちなみに中学生を対象にした学校施設に対する意識調査（参考資料1）では、調査対象6校すべてで、一番嫌いな場所としてトイレが選ばれており、トイレの整備と管理の重要性が明らかになっている。

⑫要望の少なかった項目

体育関係では、グラウンド、テニスコートは、面積や日当たりもよく、緑に囲まれていることから、さらに充実してほしいという要望は、現時点では少なかった。体育関係の施設では、やはりかなり老朽化している体育館に対する要望が強かった。温水プールは、第三希望として9人の学生が選んでいた。現在、大学にはプールはなく、夏期休暇中に、外部の施設を利用して水泳の授業を行っている。更衣室への要望も少なかったが、現在は女子大であり、男女共学になった場合、体育関係の施設・設備に対する学生の意識は変化すると予想される。

事務関係のスペースについては、事務室窓口や保健室に対する要望は少なかったが、就職相談室、掲示板、印刷室に対する要望はそれよりは多かった。これらのスペースが、学生にとっては、より身近で、自分が使う場所であることが関係してい

られると思われる。休講の案内をホールの電子掲示板に表示したり、学生に電子メールで連絡する大学もあり、今後、掲示板の機能や役割も大きく変化していくと思われる。

教室・講義関係については、前述したように、研究室、実験・実習室の充実を要望した学生は一人もおらず、視聴覚機器への要望も少なかった。自習室、図書館、講堂・大ホールは、第一から第三希望まで合わせて、10人程度の要望と、人数的には多くなかった。

部室、自治会室、談話コーナーなど、学生のためのスペースに対する要望も、現時点では弱かった。エレベーターも、本館が3階建、新館が2階建と、いずれも低層であり、要望は少なかった。意外と多かったのが、最後のベランド・屋上で、休憩時間にちょっと気分転換できるような場所は、今後求められるのではないかと考えられるが、安全対策上の課題もある。

5. まとめ

以上の調査結果を踏まえ、山梨県立女子短期大学における、今後の大学キャンパスの整備計画の方向性について考察してまとめとする。

（1）学生の大学キャンパスへの要望

本館教室にクーラーを設置し、教室の快適性を向上させることを強く学生は求めている。本館を今後も教室として使用するなら、クーラーの設置は必要であろう。

その次に学生が求めているのは、食堂・カフェの設置であった。さらに、売店、キャッシュコーナー、学生ホールなど、授業以外の時間を過ごす場所である生活空間の充実を求める要望が強かった。近年、食堂・カフェや学生ホールの充実に力を入れる大学が増えており、正門の近くや街路や大学の並木道に面した場所など、キャンパスの中心的な場所に配置し、明るく眺めのよい快適な食堂やカフェが話題になっている。今後、大学キャンパスを整備していく上で、食堂・カフェ、売店、学生ホールは極めて重要な場所であり、いかにすればより魅力的な場所になるか、配置計画はもとより、家具や照明、メニューや販売する商品の内容も含めて、学生の希望を細かく調査・分析し、計画する必要がある。

駐車場は、車通学生を中心に、要望が強かったが、敷地の制約もあり、これ以上台数を増やすの

は困難な状況にあり、今後、対策を検討する必要がある。

(2) 地域施設として整備・開放の可能性

体育館も、かなり老朽化しており、学生からの要望も多かった。予算的な問題もあり、優先順位は低くなりがちであるが、地域施設の一つとして位置付けて、検討する方法も考えられる。東京都心の小学校では、学校の建替工事にともない、公共用地の有効活用という観点から、温水プールや体育館や図書館を地域施設として整備・開放する事例が増加している。県立の大学という特性を活かし、地域施設として、大学施設を整備することで、公共施設の多様化という新たな可能性も生まれる。なお、地域施設として体育館や温水プール、図書館やホールを整備した場合、それに即した管理・運営方法は、検討すべき重要な課題である。いかにすれば、学生のみならず、地域の人々にとっても、魅力ある開かれた大学になりうるか、ハードとソフトの両面から、検討することが、求められる。

(3) 大学でのキャンパス整備の重要性

自由記述では新館が、選択肢調査ではコンピューター環境が、最も多くの学生から評価されていた。情報教室も新館にあることから、学生は

新しい施設や設備を評価する傾向が強いことが、改めて確認できた。近年、東京の私立の中学・高等学校や大学では、学校施設の改築が相次いで行われている。予備校では校舎を改築した学校の資料を受験生に配布し、学校施設が新築されると、見学者や希望者が増え、偏差値が上がる学校も少なくない。それだけ、どのような環境で勉強し、学生生活を過ごせるかということへの関心が高まっているのである。

学校施設の内容や特徴は、その学校の校風や教育・経営方針を反映しており、学生や保護者に多くのメッセージを伝える。つまり、大学キャンパスをどのように整備していくかということは、単に必要なスペースや機能を確保するということにとどまらず、大学の将来を大きく左右する、極めて重要な決断である。

謝辞 アンケート調査にご協力くださいました、先生方と学生の皆さんに、この場をお借りしてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

参考資料1.

『学校施設に対する中学生の評価と要望に関する研究』

山梨県立女子短期大学紀要第36号P77-84